

表 5. 妊娠例の術前 HSG による閉塞部位

卵管数：

	実 数	比率 (%)
間 質 部	41	75.9
峽 部	13	24.1
総 計	54	100.0

患者数：

	実 数	比率 (%)
両側間質部	19	70.4
両側峽部	5	18.5
片側間質部／片側峽部	3	11.1
総 計	27	100

表6. クラミジア(CZ)既往の有無による成功率の差

(患者ベース) :

	症例数	HSG	成功率 (%)
CZ -	122	119	97.54
CZ +	68	60	88.24
合計	190	179	94.21

(卵管ベース) :

	卵管数	HSG	成功率 (%)
CZ -	229	207	90.39
CZ +	125	98	78.40
合計	353	305	86.40

## 厚生科学研究費補助金（子ども家庭総合研究事業）

### 研究協力報告書

【わが国における生殖補助医療の実態とその在り方に関する研究】

主任研究者 矢内原 巧（昭和大学医学部産科婦人科学教室教授）

【わが国における生殖補助医療の実態とその在り方に関する研究】

分担研究者 矢内原 巧（昭和大学医学部産科婦人科学教室教授）

【患者から見た不妊治療の在り方に関する研究】

研究協力者 北村邦夫（社）日本家族計画協会クリニック所長

杉村由香理（社）日本家族計画協会クリニック事務長

鈴木良子 フィンレージの会

田邊國士 総合研究大学院大学数物科学研究科統計科学専攻教授

#### A. 研究目的

近年、生殖革命とも言える体外受精・胚移植をはじめとした高度生殖医療技術に対する関心が高まっている。しかし、その一方で、これらの医療の恩恵を受けて妊娠・出産にまで至った不妊患者とそうでない患者との間に、「産めた人」と「産めない人」という従来にも増した差別化が深刻になっている。日本産科婦人科学会の会告をも無視した非配偶者間体外受精を頑として行おうという医師がいるが、不妊の当事者にとってこれは本当に福音なのだろうか。倫理的、法的側面からの十分な検討や議論もないままに、なし崩し的に先行していく医療のあり方に問題はないのだろうか。不妊治療の限界と可能性について、どこまで情報が提供されているのだろうか。不妊治療は21世紀に向けた産婦人科医療のsurvival戦略として注目されているが、その陰で、高額な医療費を必要とすることから、不妊治療を断念せざるを得ない患者がいることに、どれほどの関心が向けられているだろうか。また、このような患者負担が増大している不妊治療に係る費用を保険適応とする必要性はないのか。

「患者から見た不妊治療の在り方に関する研究」では、不妊治療を巡る今日的な課題とも言える、不妊治療費の実態、生殖技術に関する男女の意識などについて、不妊の当事者を対象として調査研究を実施し、極めて興味深い結果を得た。

#### B. 研究方法

わが国にも、不妊の当事者を中心に組織されたグループが散見されるが、今回は、そのうち、「フィンレージの会」に所属する会員を対象として、「不妊治療の実態と生殖技術についての意識」を知るための調査を実施した。

『フィンレージの会』とは、1991年に出版された『不妊—いま何が行われているのか』（レナーテ・クライン編、晶文社）という翻訳書がきっかけとなり、日本にも不妊の問題を語り合える場が必要だということのできた自助グループで、現在会員は約1000人である。

調査票は、本研究班と『フィンレージの会』が共同で作成した（別紙添付）、以下の11項目からなるA4版18ページのものである。

1. あなたのプロフィール
2. 配偶者・パートナーについて
3. 検査と説明
4. 現在受けている治療について
5. これまでの治療経過
6. AIH（配偶者間人工授精）について
7. 体外受精・顕微授精について
8. 薬の副作用や処置によるトラブル
9. 検査・治療の費用
10. 治療を休んだ（やめた）理由
11. 検査・治療を受けないと決めた理由
12. 生殖技術についての意識（女性用・男性用）

### 1.3. 最後に…フィンレージの会とあなた

このうち、「1. あなたのプロフィール」、「2. 配偶者・パートナーについて」を含め、本研究班の目的に添う、「9. 検査・治療の費用」、「12. 生殖技術についての意識（女性用・男性用）」の結果をまとめることとした。

調査は、1999年1月9日に「フィンレージの会」の現会員と過去一年以内に退会した1,391人全員（悉皆調査）に調査票を郵送した。アンケートは原則的に無記名とした。調査票の回収は同年1月31日必着としたが、最終受け取り日を2月15日まで延長したところ、転居先不明で返送された21件を除く857件の回収を得た（回収率62.6%）。記述不備など、一部無効回答の扱いをした項目もあるが、全例を有効調査票として、入力し、集計はMicrosoft社製Excel97を用いて行った。

また、百分率（%）については、無回答を除いて算出した。

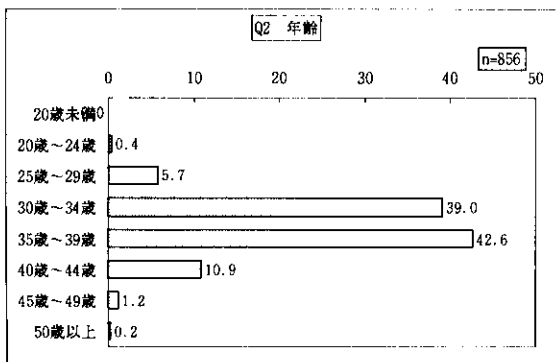
## C. 研究結果

### 1. 回答者のプロフィール

#### 1) 回答者の住所地

回答者857人は全国47都道府県に及び、外国在住者も2人いた。東京都が139人（16.2%）で最多、ついで神奈川県100人（11.7%）、埼玉県81人（9.5%）、愛知県64人（7.5%）、大阪府43人（5.0%）などとなっている。

#### 2) 回答者の年齢（1999年1月1日時点での満年齢）



年齢不詳の1人を除く856人の平均年齢は35.1歳（最高55歳、最低22歳、標準偏差3.8歳）。年

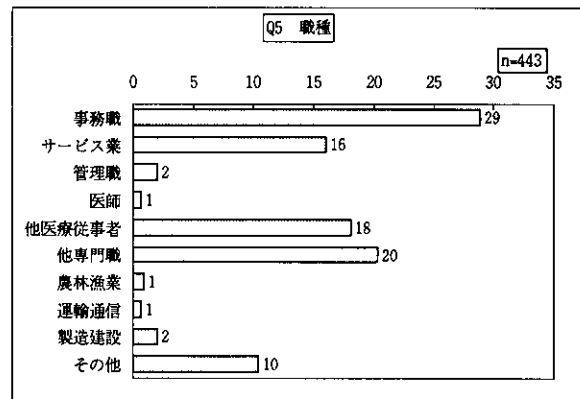
齢分布は図1のように、35歳～39歳が最多で42.6%、次いで30歳～34歳39.0%、40歳～44歳10.9%であり、30歳～44歳で9割を超えている。

#### 3) 回答者の仕事の有無

無職が48.2%、パート・アルバイト・在宅・フリーの仕事などが32.9%、フルタイム18.9%。

#### 4) パート・アルバイト・在宅・フリーの仕事、フルタイムの仕事をしている方の職種

事務職が最多で28.9%、次いで医療者以外の専門職・技術職が20.3%、医師以外の医療従事者18.1%などの順。



#### 4) 結婚の有無

98.7%が法律上の結婚をしている。結婚していない（離婚した）0.8%、結婚していない（ずっとシングル）0.4%、婚姻届は出していないが同居のパートナーがいる（事実婚）0.1%。

#### 5) 子どもがいるかどうか

「子どもいない」が66.3%と最も多いが、「子どもいる」も28.5%、「妊娠中」4.2%、「養子をもらった」が0.9%。

#### 6) 回答者の一番の悩み（単一回答）

「子宮内膜症・子宮筋腫・卵巣嚢腫などの悩みを含む不妊」を挙げる回答者が85.2%と最多で、以下「不妊+習慣流産・不育症」が6.6%、「習慣流産・不育症（妊娠はするが継続できない）」3.2%など。

#### 7) 病院で検査や治療を受けたことがあるか

98.9%が「ある」、1.1%が「ない」と回答している。

8) 「病院で検査や治療を受けたことがある」人の病院との関わり。

今までに検査や治療を受けたことがある人については、通院期間が3か月以上を超える医療機関の数は平均 2.9 件、通算通院期間は平均 55.2 月 (4.6 年) である。3カ所以上の医療機関受診をしている者についてみると、最初に受診した医療機関、途中の医療機関、最後の医療機関の選択には、際違った差が認められている (表1)。

最初の医療機関	不妊専門	一般婦人科	総合病院	大学病院	その他
100.0%	10.3	36.7	37.3	15.0	0.8
769	79	282	287	115	6
途中の医療機関	不妊専門	一般婦人科	総合病院	大学病院	その他
100.0%	25.3	23.0	24.2	25.1	2.3
434	110	100	105	109	10
最後の医療機関	不妊専門	一般婦人科	総合病院	大学病院	その他
100.0%	44.3	18.4	17.6	16.8	2.9
614	272	113	108	103	18

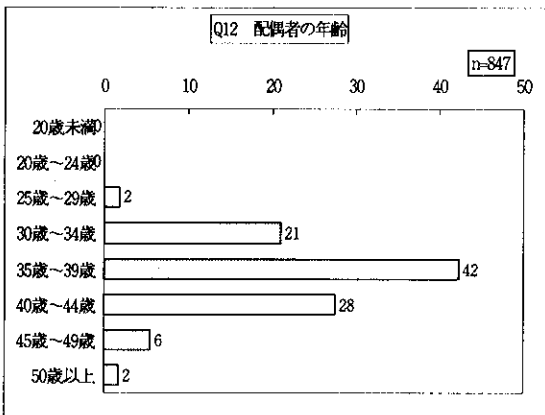
### 9) 現在の治療状況

現在治療を「受けている」者は 31.3%、「受けていない」者が 68.7%であった。

## 2. 配偶者・パートナーについて

### 1) 配偶者の年齢 (1999 年 1 月 1 日時点での満年齢)

配偶者の平均年齢は 38.0 歳 (最高 62 歳、最低 25



歳、標準偏差 46 歳) であった。年齢分布は図の通りである。

### 2) 配偶者・パートナーの職種

事務職が 25.0%で最多、ついで医療者以外の専門職・技術職が 23.2%、販売・サービス職が 14.7%、経営・管理職が 11.5%、製造・建設作業員が 9.0%

であった。

### 3) 結婚 (同居) 年数

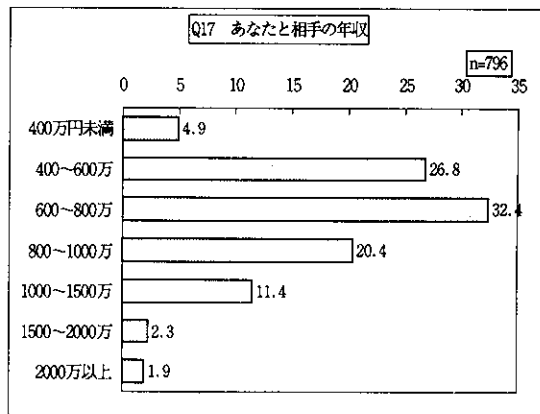
結婚 (同居) からの平均年数は 9.2 年 (標準偏差 3.6 年)。

### 4) 親との同居 (2世帯住宅を含む) の有無

81.9%が同居していないと回答するが、「配偶者またはパートナーの父母、祖父母と同居」が 13.5%、「自分の父母、祖父母と同居」が 4.6%であった。

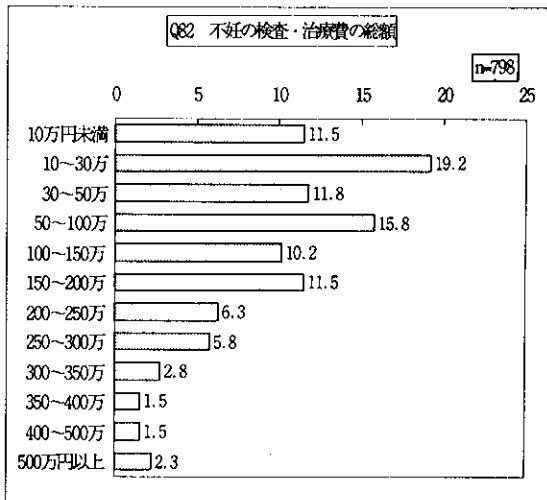
### 5) 回答者とパートナーの年間収入 (税込み)

図の通り、600~800 万円未満が 32.4%と最多、次いで 400~600 万円未満 26.8%、800~1000 万円未満が 20.4%の順。



## 3. 検査・治療の費用

検査・治療の経験のある回答者に尋ねた結果は以下の通りであった。



1) 健康保険のきかない医療機関 (すべて自費の病院) にかかったことがあるか。

「ない」が 69.5%、「ある」が 30.5%。

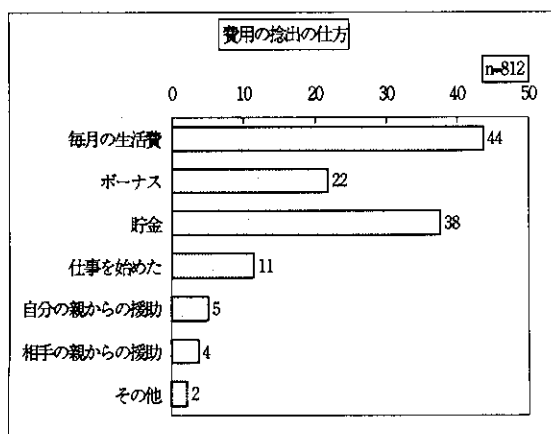
2) その病院を含め、これまでの不妊の検査・治

療費として医療機関に支払った費用の額。

10～30万円が19.2%で最多であり、次いで50～100万円15.8%、150～200万円11.5%、30～50万円11.8%など。

3) 通院にかかった交通費や宿泊費、東洋医学(漢方薬、鍼灸、整体など)、心療内科や精神科の受診、心理カウンセリングなど、直接の不妊治療以外に使った費用。

42.9%が10万円未満、25.9%が10～30万円、次いで30～50万円14.5%、50～100万円9.1%。



4) 不妊の検査・治療費など医療機関に支払った費用と、通院などにそれ以外の費用の捻出の方法。

「毎月の生活費だけでまかなえた」が43.6%であるが、「それまでの貯金を使った」37.6%、「ボーナスを使った」21.8%、「仕事を始めた」11.5%など。

5) 規定の治療費以外に、医療機関で“謝礼”や“研究費”を求められたことがあるか。

「ない」が97.3%と最多。「はっきり要求された」1.4%、「暗にほのめかされたことがある」1.3%と僅かであるが要求された経験を持っている。

6) AIH(人工授精)一回分の費用(注射・投薬を除く)

平均で見ると、回答者332人のうち、最低額は10,600円(標準偏差7,600円)、回答者93人のうち最高額13,400円(標準偏差7,400円)であった。

7) 採卵から胚移植までの体外受精にかかった費用(注射・投薬を除く)

回答者233人のうち、最低額一回平均26.7万円(標準偏差12.8万円)、最高額は回答者98人で一回平均32.7万円(標準偏差11.9万円)であった。

また、受精卵を戻した最多数は3.2個(標準偏差1.6個)である。

8) 採卵から胚移植までの顕微授精にかかった費用(注射・投薬を除く)

回答者130人のうち、最低額一回平均31.7万円(標準偏差13.8万円)、最高額は回答者54人のうち一回平均40.8万円(標準偏差23.4万円)であった。

また、受精卵を戻した最多数は3.2個(標準偏差1.9個)。

9) 凍結精子の保存期間と費用

保存期間について回答した102人のうち、保存期間が期限付きであった者は、57.8%、特に期限が明記されなかった者42.2%であった。また、有料であった者が回答者101人中83.2%、無料または他の料金に含まれたと思われるものが16.8%であり、有料の場合の経費は2.4万円(標準偏差2.7万円)。

10) 凍結受精卵の保存期間と費用

保存期間について回答した118人のうち、保存期間が期限付きであった者は64.4%、特に期限が明記されなかった者35.6%であった。また、有料であった者が回答者116人中79.3%、無料または他の料金に含まれたと思われるものが20.7%であり、有料の場合の経費は4.5万円(標準偏差3.1万円)。

11) 凍結受精卵の解凍～胚移植に係る経費

一回平均8.6万円(標準偏差5.4万円)で、宿泊を要する場合はほとんどなかった。

### 3. 生殖技術についての意識

生殖技術の具体的な方法や、起こるかも知れない医学的なリスク、議論されている法的・社会的・倫理的問題点について、男女ともに尋ねたところ、以下の結果を得た。

1) 生殖技術に関する理解度

①人工授精(AIH) — 女性

全体	十分理解	だいたいい理解	少し理解	言葉聞いた程度	全く知らない
100%	44.1	45.0	9.1	1.6	0.1
853	376	384	78	14	1

(男性)

全体	十分理解	だいたいい理解	少し理解	言葉聞いた程度	全く知らない
100%	20.4	49.7	23.2	6.0	0.7
535	109	266	124	32	4

②体外受精—女性

全体	十分理解	だいたいい理解	少し理解	言葉聞いた程度	全く知らない
100%	34.2	46.1	16.9	2.7	0.1
851	291	392	144	23	1

(男性)

全体	十分理解	だいたいい理解	少し理解	言葉聞いた程度	全く知らない
100%	19.8	46.4	24.9	8.0	0.9
535	106	248	133	43	5

③顕微授精—女性

全体	十分理解	だいたいい理解	少し理解	言葉聞いた程度	全く知らない
100%	24.4	39.0	28.0	7.8	0.8
849	207	331	238	66	7

(男性)

全体	十分理解	だいたいい理解	少し理解	言葉聞いた程度	全く知らない
100%	16.4	34.2	25.6	13.6	10.1
535	88	183	137	73	54

③提供精子による人工授精(AIH)—女性

全体	十分理解	だいたいい理解	少し理解	言葉聞いた程度	全く知らない
100%	21.9	40.1	28.0	9.3	0.8
851	186	341	238	79	7

(男性)

全体	十分理解	だいたいい理解	少し理解	言葉聞いた程度	全く知らない
100%	12.3	35.9	29.2	17.0	5.6
535	66	192	156	91	30

⑤提供卵子による体外受精・顕微授精—女性

全体	十分理解	だいたいい理解	少し理解	言葉聞いた程度	全く知らない
100%	13.4	35.4	34.7	14.9	1.5
850	114	301	295	127	13

(男性)

全体	十分理解	だいたいい理解	少し理解	言葉聞いた程度	全く知らない
100%	10.1	30.3	32.0	19.1	8.6

535	54	162	171	102	46
-----	----	-----	-----	-----	----

⑥提供精子による体外受精・顕微授精—女性

全体	十分理解	だいたいい理解	少し理解	言葉聞いた程度	全く知らない
100%	13.4	35.8	33.8	14.8	2.1
849	114	304	287	126	18

(男性)

全体	十分理解	だいたいい理解	少し理解	言葉聞いた程度	全く知らない
100%	9.9	30.3	31.0	20.0	8.8
535	53	162	166	107	47

⑦提供受精卵による体外受精—女性

全体	十分理解	だいたいい理解	少し理解	言葉聞いた程度	全く知らない
100%	10.9	29.6	29.0	21.8	8.7
852	93	252	247	186	74

(男性)

全体	十分理解	だいたいい理解	少し理解	言葉聞いた程度	全く知らない
100%	7.9	25.5	28.8	21.9	15.9
534	42	136	154	117	85

⑧代理母・代理出産—女性

全体	十分理解	だいたいい理解	少し理解	言葉聞いた程度	全く知らない
100%	11.2	34.9	35.4	17.6	0.9
852	95	297	302	150	8

(男性)

全体	十分理解	だいたいい理解	少し理解	言葉聞いた程度	全く知らない
100%	12.0	31.1	34.5	19.7	2.6
534	48	119	120	105	14

⑨減胎手術(減数手術)—女性

全体	十分理解	だいたいい理解	少し理解	言葉聞いた程度	全く知らない
100%	13.8	39.6	32.6	11.2	2.8
850	117	337	277	95	24

(男性)

全体	十分理解	だいたいい理解	少し理解	言葉聞いた程度	全く知らない
100%	9.0	22.3	22.5	16.5	29.8
534	48	119	120	88	159

⑩円形精子細胞(または後期精子細胞)を利用した顕微授精—女性

全体	十分理解	だいたいい理解	少し理解	言葉聞いた程度	全く知らない
100%	1.9	7.8	14.6	28.3	47.5
851	16	66	124	241	404

(男性)

全体	十分理解	だいたい理解	少し理解	言葉聞いた程度	全く知らない
100%	1.7	4.1	7.3	16.7	70.2
534	9	22	39	89	375

⑪ 受精卵診断—女性

全体	十分理解	だいたい理解	少し理解	言葉聞いた程度	全く知らない
100%	4.0	19.9	28.2	31.3	16.6
849	34	169	239	266	141

(男性)

全体	十分理解	だいたい理解	少し理解	言葉聞いた程度	全く知らない
100%	3.0	11.3	18.2	25.3	42.2
533	16	60	97	135	225

⑫ クローン—女性

全体	十分理解	だいたい理解	少し理解	言葉聞いた程度	全く知らない
100%	3.8	20.2	38.4	34.8	2.8
851	32	172	327	296	24

(男性)

全体	十分理解	だいたい理解	少し理解	言葉聞いた程度	全く知らない
100%	10.9	28.3	31.5	24.3	5.1
534	58	151	168	130	27

2) それぞれの生殖技術について、あなたはどうか。

① 人工授精 (AIH) —女性

全体	受けたことがある	それ以外に方法がなければ積極的	それ以外に方法がなければ受けるかもしれない	受けない	わからない
100%	64.4	12.4	11.1	9.6	2.5
840	541	104	93	81	21

(男性)

全体	受けたことがある	それ以外に方法がなければ積極的	それ以外に方法がなければ受けるかもしれない	受けない	わからない
100%	62.1	8.8	14.8	9.2	5.1
533	331	47	79	49	27

② 体外受精—女性

全体	受けたことがある	それ以外に方法がなければ積極的	それ以外に方法がなければ受けるかもしれない	受けない	わからない
----	----------	-----------------	-----------------------	------	-------

全体	受けたことがある	それ以外に方法がなければ積極的	それ以外に方法がなければ受けるかもしれない	受けない	わからない
100%	37.9	13.6	22.5	18.6	7.4
837	317	114	188	156	62

(男性)

全体	受けたことがある	それ以外に方法がなければ積極的	それ以外に方法がなければ受けるかもしれない	受けない	わからない
100%	37.6	13.5	23.8	17.4	7.7
534	201	72	127	93	4

③ 顕微授精—女性

全体	受けたことがある	それ以外に方法がなければ積極的	それ以外に方法がなければ受けるかもしれない	受けない	わからない
100%	18.5	18.9	27.4	25.0	10.2
840	155	159	230	210	86

(男性)

全体	受けたことがある	それ以外に方法がなければ積極的	それ以外に方法がなければ受けるかもしれない	受けない	わからない
100%	19.7	17.3	27.3	21.1	14.7
532	105	92	145	112	78

④ 提供精子による人工授精 (AIH) —女性

全体	受けたことがある	それ以外に方法がなければ積極的	それ以外に方法がなければ受けるかもしれない	受けない	わからない
100%	2.0	3.1	9.1	74.1	11.6
842	17	26	77	624	98

(男性)

全体	受けたことがある	それ以外に方法がなければ積極的	それ以外に方法がなければ受けるかもしれない	受けない	わからない
100%	1.1	2.6	8.3	70.9	17.1
533	6	14	44	378	91

⑤ 提供卵子による体外受精・顕微授精—女性

全体	受けたことがある	それ以外に方法がなければ積極的	それ以外に方法がなければ受ける	受けない	わからない
----	----------	-----------------	-----------------	------	-------



	ある	に受けた い	かもしれ ない		
100%	0.2	2.7	8.9	75.6	12.5
840	2	23	75	635	105

(男性)

全体	受け たこ とが ある	それ以外 に方法 が積極 的に受 けたい	それ以外 に方法 が積極 的に受 けるか もしれ ない	受け ない	わか らない
100%	0.0	2.3	8.4	72.4	16.9
533	0	12	45	386	90

⑥提供精子による体外受精・顕微授精—女性

全体	受け たこ とが ある	それ以外 に方法 が積極 的に受 けたい	それ以外 に方法 が積極 的に受 けるか もしれ ない	受け ない	わか らない
100	0.4	2.9	7.1	76.9	12.7
841	3	24	60	647	107

(男性)

全体	受け たこ とが ある	それ以外 に方法 が積極 的に受 けたい	それ以外 に方法 が積極 的に受 けるか もしれ ない	受け ない	わか らない
100%	0.0	2.3	8.4	72.4	16.7
533	0	8	39	395	91

⑦提供受精卵による体外受精—女性

全体	受け たこ とが ある	それ以外 に方法 が積極 的に受 けたい	それ以外 に方法 が積極 的に受 けるか もしれ ない	受け ない	わか らない
100%	0.0	2.4	4.9	80.3	12.5
842	0	20	41	676	105

(男性)

全体	受け たこ とが ある	それ以外 に方法 が積極 的に受 けたい	それ以外 に方法 が積極 的に受 けるか もしれ ない	受け ない	わか らない
100%	0.0	1.5	7.3	74.1	17.1
533	0	8	39	395	91

⑧代理母・代理出産—女性

全体	受け たこ とが ある	それ以外 に方法 が積極 的に受 けたい	それ以外 に方法 が積極 的に受 けるか もしれ ない	受け ない	わか らない
100%	0.2	6.1	12.4	44.4	36.8
836	2	51	104	371	308

		受けた い	もしれ ない		
100%	0.0	2.5	8.0	78.6	10.9
842	0	21	67	662	92

(男性)

全体	受け たこ とが ある	それ以外 に方法 が積極 的に受 けたい	それ以外 に方法 が積極 的に受 けるか もしれ ない	受け ない	わか らない
100%	0.0	3.4	7.1	74.7	14.8
533	0	18	38	398	79

⑨減胎手術（減数手術）—女性

全体	受け たこ とが ある	それ以外 に方法 が積極 的に受 けたい	それ以外 に方法 が積極 的に受 けるか もしれ ない	受け ない	わか らない
100	0.1	5.3	24.2	41.4	28.9
842	1	45	204	349	243

(男性)

全体	受け たこ とが ある	それ以外 に方法 が積極 的に受 けたい	それ以外 に方法 が積極 的に受 けるか もしれ ない	受け ない	わか らない
100%	0.2	4.7	19.7	35.9	39.5
532	1	25	105	191	210

⑩円形精子細胞（または後期精子細胞）を利用した顕微授精—女性

全体	受け たこ とが ある	それ以外 に方法 が積極 的に受 けたい	それ以外 に方法 が積極 的に受 けるか もしれ ない	受け ない	わか らない
100%	0.2	6.1	12.4	44.4	36.8
836	2	51	104	371	308

(男性)

全体	受け たこ とが ある	それ以外 に方法 が積極 的に受 けたい	それ以外 に方法 が積極 的に受 けるか もしれ ない	受け ない	わか らない
100%	0.2	6.1	12.4	44.4	36.8
836	2	51	104	371	308

⑪ 受精卵診断—女性

全体	受けたことがある	それ以外に方法がなければ積極的に受けたい	それ以外に方法がなければ受けるかもしれない	受けない	わからない
100%	0.1	5.6	13.0	44.3	36.9
839	1	47	109	372	310

(男性)

全体	受けたことがある	それ以外に方法がなければ積極的に受けたい	それ以外に方法がなければ受けるかもしれない	受けない	わからない
100%	0.6	5.8	15.0	31.4	47.2
532	3	31	80	167	251

⑫ クローン—女性

全体	受けたことがある	それ以外に方法がなければ積極的に受けたい	それ以外に方法がなければ受けるかもしれない	受けない	わからない
100%	0.2	1.2	2.7	76.9	18.9
841	2	10	23	647	159

(男性)

全体	受けたことがある	それ以外に方法がなければ積極的に受けたい	それ以外に方法がなければ受けるかもしれない	受けない	わからない
100%	0.0	1.9	3.8	73.1	21.2
532	0	10	20	389	113

3) これらの生殖技術が用いられることについて、  
どう考えるか。

① 人工授精 (AIH) —女性

全体	賛成	どちらかと言えは賛成	どちらかと言えは反対	反対	わからない
100%	71.6	19.5	3.3	0.8	4.7
843	604	164	28	7	40

(男性)

全体	賛成	どちらかと言えは賛成	どちらかと言えは反対	反対	わからない
100%	58.2	28.0	5.4	2.1	6.4
533	310	149	29	11	34

② 体外受精—女性

全体	賛成	どちらかと言えは賛成	どちらかと言えは反対	反対	わからない
100%	59.8	26.9	5.9	1.1	6.3
843	504	227	50	9	53

(男性)

全体	賛成	どちらかと言えは賛成	どちらかと言えは反対	反対	わからない
100%	50.0	31.1	7.2	3.8	7.9
530	265	165	38	20	42

③ 顕微授精—女性

全体	賛成	どちらかと言えは賛成	どちらかと言えは反対	反対	わからない
100%	54.7	26.5	7.5	1.8	9.5
844	462	224	63	15	80

(男性)

全体	賛成	どちらかと言えは賛成	どちらかと言えは反対	反対	わからない
100%	44.5	28.3	8.5	5.3	13.4
530	236	150	45	28	71

④ 提供精子による人工授精 (AID) —女性

全体	賛成	どちらかと言えは賛成	どちらかと言えは反対	反対	わからない
100%	14.0	22.4	19.4	18.1	26.2
841	118	188	163	152	220

(男性)

全体	賛成	どちらかと言えは賛成	どちらかと言えは反対	反対	わからない
100%	7.5	19.1	20.8	28.5	24.0
533	40	102	111	152	128

⑤ 提供卵子による体外受精・顕微授精—女性

全体	賛成	どちらかと言えは賛成	どちらかと言えは反対	反対	わからない
100%	11.5	20.1	20.2	19.1	29.1
842	97	169	170	161	245

(男性)

全体	賛成	どちらかと言えは賛成	どちらかと言えは反対	反対	わからない
100%	7.3	19.0	20.3	28.6	24.8
532	39	101	108	152	132

⑥提供精子による体外受精・顕微授精—女性

全体	賛成	どちらか と言え ば賛成	どちらか と言え ば反対	反対	わ か ら な い
100%	12.0	19.7	20.0	19.1	29.2
842	101	166	168	161	246

(男性)

全体	賛成	どちらか と言え ば賛成	どちらか と言え ば反対	反対	わ か ら な い
100%	7.3	18.2	19.7	29.5	25.2
532	39	97	105	157	134

⑦提供受精卵による体外受精—女性

全体	賛成	どちらか と言え ば賛成	どちらか と言え ば反対	反対	わ か ら な い
100%	9.7	15.7	21.5	24.1	29.1
839	81	132	180	202	244

(男性)

全体	賛成	どちらか と言え ば賛成	どちらか と言え ば反対	反対	わ か ら な い
100%	6.6	14.8	21.1	31.0	26.5
532	35	79	112	165	141

⑧代理母・代理出産—女性

全体	賛成	どちらか と言え ば賛成	どちらか と言え ば反対	反対	わ か ら な い
100%	8.0	14.6	19.0	30.8	27.7
842	67	123	160	259	233

(男性)

全体	賛成	どちらか と言え ば賛成	どちらか と言え ば反対	反対	わ か ら な い
100%	6.4	14.7	21.8	32.1	25.0
532	34	78	116	171	133

⑨減胎手術（減数手術）—女性

全体	賛成	どちらか と言え ば賛成	どちらか と言え ば反対	反対	わ か ら な い
100%	8.3	20.3	20.9	15.5	35.0
841	70	171	176	130	294

(男性)

全体	賛成	どちらか と言え ば賛成	どちらか と言え ば反対	反対	わ か ら な い
100%	7.2	18.5	15.1	17.9	41.3
530	38	98	80	95	219

⑩円形精子細胞（または後期精子細胞）を利用した顕微授精—女性

全体	賛成	どちらか と言え ば賛成	どちらか と言え ば反対	反対	わ か ら な い
100%	10.7	13.2	7.7	9.4	59.1
834	89	110	64	78	493

(男性)

全体	賛成	どちらか と言え ば賛成	どちらか と言え ば反対	反対	わ か ら な い
100%	6.6	9.4	6.8	13.1	64.2
533	35	50	36	70	342

⑪受精卵診断—女性

全体	賛成	どちらか と言え ば賛成	どちらか と言え ば反対	反対	わ か ら な い
100%	8.0	15.9	15.1	14.3	46.7
841	67	134	127	120	393

(男性)

全体	賛成	どちらか と言え ば賛成	どちらか と言え ば反対	反対	わ か ら な い
100%	7.1	16.7	10.5	14.3	51.4
533	38	89	56	76	274

⑫クローン—女性

全体	賛成	どちらか と言え ば賛成	どちらか と言え ば反対	反対	わ か ら な い
100%	1.8	2.5	5.9	63.1	26.6
841	15	21	50	531	224

(男性)

全体	賛成	どちらか と言え ば賛成	どちらか と言え ば反対	反対	わ か ら な い
100%	2.8	3.2	8.8	61.5	23.7
532	15	17	47	327	126

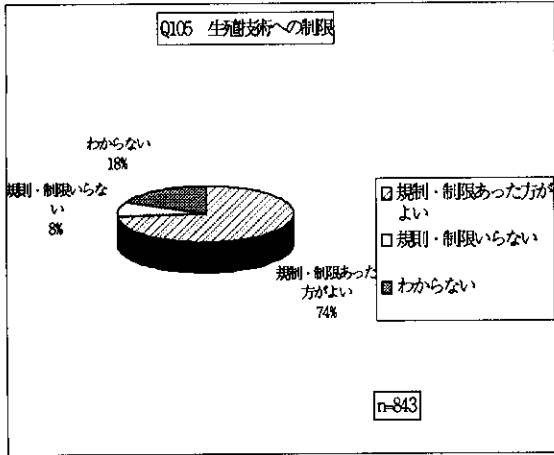
4) これらの生殖技術について、一定の規則や制限を設けることについて

「規則や制限があったほうがよい」と73.9%が考え、「規則や制限はなくてよい」と8.2%、「わからない」と17.9%が回答している。

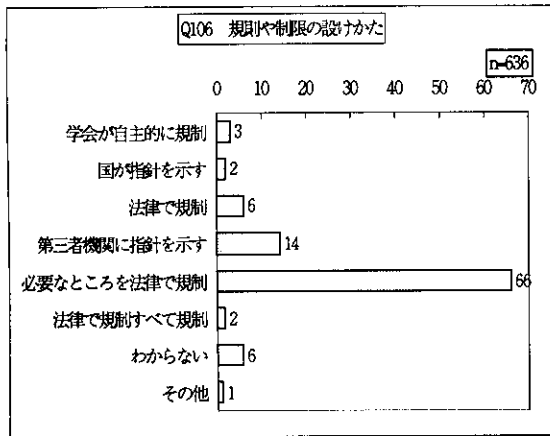
規則や制限はどのように設ければよいか

「専門家とさまざまな立場の市民と国による第三者機関が指針（ガイドライン）を示し、必要なと

「国が法律で規制する」が最多で 66.2%、次いで



「専門家とさまざまな立場の市民と国による第三者機関が指針(ガイドライン)を示し、規制する」14.2%、「国が指針(ガイドライン)を示し、必要なところは法律で規制する」6.1%、「わからない」5.8%。その他、「学会等が自主的に規制する」3.0%、「国が指針(ガイドライン)を示し、規制する」3.0%、「わからない」5.8%など。



## D. 考察

### 1. 回答者のプロフィール

#### 1) 年齢や職種

【フィンレージの会】の会員の背景を見ると、年齢は平均 35.1 歳であり、概して年齢が高い。これを反映するように、患者の自助グループでありながら、「治療」を現在は「受けていない」が 68.7%を占めている。

就業者の割合は、「フルタイム」が 18.9%に留まっており、統計局が平成 10 年に実施した労働力人口調査による、労働人口 50.1%よりもはるかに低

い。これは、不妊治療を受けるためには、相当な時間的制約を求められるために、就業し得なかった可能性が高い。また、職種については、平成 11 年 1 月調査の「就業状態別 15 歳以上人口、産業別就業者数、完全失業者数」報告からは、わが国女性の場合、サービス業、卸売・飲食店、製造業、建設業などの順であるが、この会に所属する会員は、医師を含む医療従事者が 18.8%、他の専門職が 18.1%と専門職、技術職が多いのが特徴である。工作上、不妊治療への関心が高く、このような結果が出たものと思われる。

#### 2) 子どもの有無と悩み

不妊の自助グループとはいえ、「子どもあり」が 28.5%を占めている。回答者の「一番の悩み」が不妊 85.2%であることを考えると、「二人目不妊」に悩む女性の多いことが示唆される。

#### 3) 病院との関わり

不妊に悩む当事者としては、98.9%と大半が医療との関わりを持ったことが判明しているが、前述のように現在も治療を受けている人は、31.3%と低くなっている。彼らの、医療機関受診行動は興味深く、最初は近隣の産婦人科や総合病院で受診するものの、不妊治療の成果を上げることができないために、次第に高度な医療を求めて、不妊専門の医療機関へと向かっていくことが明らかとなった。

## 2. 配偶者・パートナー

### 1) 配偶者の年齢

配偶者の年齢は、回答者に比べて平均で 3 歳程度高い。また、職種については、回答者に医療職、技術職が多いのと対照的に、4.1%に留まっている。結婚(同居)年齢は平均 9.2 年。平成 7 年の国勢調査では、一般世帯の家族類別割合は、核家族世帯が 58.7%であるのに対して、回答者の場合、父母、祖父母との同居は 18.1%に留まっている。子どもがいないことから、親との同居が難しくなっているのだろうか。

### 2) 家庭の年間収入

回答者とパートナーの税込み年間収入は、600 万円から 800 万円未満が 32.4%と最多であったが、

わが国統計局の統計「一世帯当たりの平成 10 年の収入と支出」調査によれば 7,066,992 円であり、概ねわが国平均的な世帯のように思われる。

### 3. 検査・治療の費用

#### 1) 検査・治療の費用

不妊の検査や治療のために関わった医療機関の数は通算平均 2.8 施設、通院期間は 55.2 か月 (4.6 年) であった。この間、不妊の検査・治療費として医療機関に支払った費用は、100 万円以下の人が全体の 58.3% で半数を超え、100~200 万円 21.7%、200~300 万円 12.1%、300 万円以上が 8.1 であった。今後治療を継続していけば更に費用がかさんでいくことは予想されるが、回答者の 68.7% は既に治療を休止している。新聞投書などには「300 万円以上使った」などの声も掲載され、「多くの不妊患者が多額の費用をその治療のためにつぎ込んでいる」という印象を持たれているが、この費用が、5 年程度の間にかかった不妊治療費であって、その意味からは、一部を除いては、さほど高額化しているとは言えないかも知れない。

一方、統計局の調査では、平成 10 年、勤労世帯での保健医療費は世帯当たり年間 10,585 円、約 5 年間に換算して 53,000 円程度に過ぎないことを考慮すると、不妊患者の家庭における保健医療費は、家計を圧迫している可能性を否定できない。しかも、500 万円以上という高額費用負担者が 2.3% もいることは看過できない。

また、本調査では不十分であるが、「治療を止めた理由」を見た場合に、「不妊治療に係る費用が負担」が挙げられることもあり得る。

興味深いのは、これら不妊治療に係る費用をどこから捻出したかという点である。それによれば、「毎月の生活費だけでまかなえた」が 43.6% であるが、「それまでの貯金を使った」37.6%、「ボーナスを使った」21.8%、「仕事を始めた」11.5%などを挙げている。一方、所帯を持ってもなお、「自分の親から」と「相手の親から」負担してもらっている例が 6.0% あり、不妊治療費負担の困難さを物語る結果となっている。

#### 2) 過去 3 年間に受けた高度生殖医療に係る費用

排卵から胚移植まで、体外受精を受けたことのある 233 人の費用負担は、一回当たり、最低でも平均 26.7 万円 (標準偏差 12.8 万円) と、医療機関格差があるように思われる。ちなみに、この場合の最高額を挙げた回答者は 86 万円であった。また、僅か 98 人ではあるが、最高費用の平均では、32.7 万円 (標準偏差 11.9 万円) で、この場合の最高額は 70 万円であった。自由診療という名のもとに決められている、このような医療機関間での費用格差は、患者に混乱を与えるだけでなく、妊娠・出産を強く望む不妊患者が、経済的な理由から、治療を断念せざるを得ない状況を生み出すことにはならないだろうか。

減胎手術 (減数手術) への関心が向けられているが、体外受精において、受精卵を戻した最多個数は、平均 3.2 個 (標準偏差 2.8 個、最多 14 個)、顕微授精では 3.2 個 (標準偏差 1.9 個、最多 15 個) という結果が出ている。日本産科婦人科学会の会告には、多胎妊娠を防止するために、戻す受精卵の数は 3 個以内としているが、このような結果からは、会告がきちんと守られていない現実が明らかとなっている。

#### 3) 精子、受精卵の凍結保存

1996 年に日本不妊学会がまとめた『新しい生殖医療技術のガイドライン』によれば、凍結精子の保存期間は「本人の生存期間」、さらに胚の凍結保存については「無条件にその保存および使用を認めることは、多方面に混乱をもたらす」として、保存期間や取り扱い等を明記した同意書を用意するよう推奨している。しかし、本調査では精子凍結については 42.2%、胚凍結については 35.6% が「特に期間は明示されなかった」としており、凍結保存に係るインフォームド・コンセントが十分に行われない現状が示唆された。

### 4. 生殖技術に対する理解度と認知度

単純データは前述しているが、詳細について、今後順次報告したい。

(資料)

不妊治療の実態と生殖技術についての意識 アンケート調査

◎全員におうかがいします

1 あなたのプロフィール

Q1 あなたが現在住んでいる都道府県はどこですか。

01北海道 02青森 03岩手 04宮城 05秋田 06山形 07福島 08茨城 09栃木 10群馬 11埼玉 12千葉 13東京 14神奈川 15山梨 16長野 17新潟 18富山 19石川 20福井 21岐阜 22静岡 23愛知 24三重 25滋賀 26京都 27大阪 28兵庫 29奈良 30和歌山 31鳥取 32島根 33岡山 34広島 35山口 36徳島 37香川 38愛媛 39高知 40福岡 41佐賀 42長崎 43熊本 44大分 45宮崎 46鹿児島 47沖縄 48外国

Q2 年齢はおいくつですか (1999年1月1日時点の満年齢をご記入ください)。

Q3 兄弟姉妹はいますか。

01 いない 02 女きょうだいだけで妹のみ(自分は長女) 03 女きょうだいだけで姉がいる 04 他に兄や弟など男きょうだいがいる

Q4 現在、仕事はしていますか。

01 無職 02 パート・アルバイト・在宅・フリーの仕事など 03 フルタイム

Q5 【Q4で02、03と答えた方】職業または職種は次のうちどれにあたりますか。

01 事務職 02 販売・サービス職 03 経営・管理職 04 医師 05 医師以外の医療従事者 06 医療者以外の専門職・技術職 07 農林漁業 08 運輸・通信職 09 製造・建設作業員 10 その他

★どれにあたるかわからない方は具体的にお書きください [ ]

Q6 現在、結婚はしていますか。

01 結婚している(法律上の夫婦) 02 婚姻届は出していないが同居のパートナーがいる(事実婚) 03 していない(ずっとシングル) 04 していない(離婚した)

Q7 現在、お子さんはいますか。

01 いない 02 いる 03 養子をもった 04 里親として子どもを育てている 05 妊娠中

Q8 あなたの一番の悩みはどれですか (どれでしたか)。一つだけ選んでください。

01 不妊 (子宮内膜症・子宮筋腫・卵巣嚢腫などの悩みを含む)  
02 2人目不妊 (1人目は特に問題なく妊娠・出産したのに2人目、3人目ができない)  
03 習慣流産・不育症 (妊娠はするが継続できない)  
04 1人目または2人目出産後の習慣流産・不育症  
05 不妊+習慣流産・不育症

06 セックスができないことによる不妊(勃起障害、性交痛など) 07 医師から妊娠を止められている 08  
その他 [具体的に:]

Q9 【Q8で01~05と答えた方】それらの悩みについて、病院で検査または治療を受けたことはありますか。

01 ある 02 ない

Q10 【Q9で01(ある)と答えた方】いままでに行った  
病院の数と通院期間はどのくらいですか。該当する病院の種類番号と、さしつかえなければ病院名を  
記入してください。

\* 3カ月以上通った病院のみを数えてください。

\* 4つ以上の病院に通った方は途中いちばん長く  
通った病院を「途中の病院」にしてください。

《種類番号》 01 不妊専門病院

02 一般の産婦人科病院

03 総合病院の産婦人科

04 大学病院

05 その他

Q11 現在、病院で治療を受けていますか。

01 受けている 02 受けていない

◎現在、結婚(事実婚を含む)をしている方におうかがいします

2 配偶者・パートナーについて

Q12 年齢はおいくつですか (1999年1月1日時点の満年齢をご記入ください)。

Q13 配偶者またはパートナーに兄弟姉妹はいますか。

01 いない 02 長男で他は女きょうだいのみ(男性は自分だけ) 03 長男で下に男きょうだいもいる

04 上に男きょうだいがいる(長男ではない)

Q14 配偶者またはパートナーの職種は次のうちどれにあたりますか

01 事務職 02 販売・サービス職 03 経営・管理職 04 医師 05 医師以外の医療従事者

06 医療者以外の専門職・技術職 07 農林漁業 08 運輸・通信職 09 製造・建設作業者

10 その他

★どれにあたるかわからない方は具体的にお書きください [ ]

Q15 結婚(同居)は何年目ですか。

Q16 親と同居（2世帯住宅を含む）ですか

01 いいえ 02 配偶者またはパートナーの父母、祖父母と同居 03 自分の父母、祖父母と同居

Q17 あなた+パートナーの年間収入(税込み)はおよそどのくらいですか。さしつかえなければご記入ください。

01.400万円未満 02.400～600万円未満 03.600～800万円未満  
04.800万円～1000万円未満 05.1000～1500万円未満 06.1500～2000万円未満  
07.2000万円以上

◎検査・治療の経験のある方、全員におうかがいします

### 9 検査・治療の費用

Q81 健康保険のきかない医療機関（すべて自費の病院）にかかったことはありますか。

01 ある 02 ない

Q82 その病院を含め、これまで不妊の検査・治療費として医療機関に支払った費用はおよそどのくらいですか（だいたいの額でけっこうです）。

01.10万円未満 02.10～30万円 03.30～50万円 04.50～100万円  
05.100～150万円 06.150～200万円 07.200～250万円 08.250～300万円  
09.300～350万円 10.350～400万円 11.400～500万円 12.500万円以上

Q83 通院にかかった交通費や宿泊費、東洋医学(漢方薬、鍼灸、整体など)、心療内科や精神科の受診、心理カウンセリングなど、直接の不妊治療以外に使ったお金はおよそどのくらいですか（だいたいの額でけっこうです）。

\*旅行やコンサート、外食など“娯楽を兼ねたもの”の費用は含みません。

01.10万円未満 02.10～30万円 03.30～50万円 04.50～100万円  
05.100～150万円 06.150～200万円 07.200～250万円 08.250万円以上

Q84 それらの費用はどのように捻出しましたか。いくつでも選んでください。

01 毎月の生活費だけでまかなえた 02 ボーナスを使った 03 それまでの貯金を使った  
04 仕事を始めた 05 自分の親から援助 06 配偶者・パートナーの親から援助  
07 その他 [具体的に:]

Q85 規定の治療費以外に、医療機関で“謝礼”や“研究費”を求められたことはありますか。01 はっきり要求されたことがある 02 暗にほのめかされたことがある 03 ない

ある方は、そのときの状況や金額、払ったかどうか、またさしつかえなければ病院名などを自由にお書きください。( )

不妊治療の費用について、思うことを自由にお書きください。



( )

◎過去3年以内に(1996～1998年)、以下の治療を受けたことのある方におうかがいします。

Q86 人工授精(AIH)を受けた方、費用は1回いくらでしたか(注射・投薬は除く)。

Q86-1 最低額 1回約 千円

Q86-2 最高額 1回約 千円

Q87 体外受精を受けた方、採卵から胚移植までの費用は1回いくらでしたか(注射・投薬は除く)。

\*そのときの入院日数も□にご記入ください。日帰りの場合は[0]としてください。

Q87-1 最低額 1回約 万円 泊

Q87-2 最高額 1回約 万円 泊

Q87-3 受精卵は、最高で何個戻しましたか? 個

Q88 顕微授精を受けた方、採卵から胚移植までの費用は1回いくらでしたか(注射・投薬は除く)。

\*そのときの入院日数も□にご記入ください。日帰りの場合は[0]としてください。

Q88-1 最低額 1回約 万円 泊

Q88-2 最高額 1回約 万円 泊

Q88-3 受精卵は、最高で何個戻しましたか? 個

◎以下の項目は、この技術を実施していた最後の病院についてご記入ください。

Q89 凍結精子の保存期間と費用はいくらでしたか。有料の場合は金額も教えてください。

Q89-1 保存期間……01 期限つき

02 特に期限は明示されていない

Q89-2 保存費用……01 有料

02 無料または他の料金に込み

Q90 凍結受精卵の保存期間と費用はいくらくらいでしたか。有料の場合は金額も教えてください。

Q90-1 保存期間……01 期限つき

02 特に期限は明示されていない

Q90-2 保存費用……01 有料

02 無料または他の料金に込み

Q91 凍結受精卵の解凍～胚移植の費用はいくらくらいでしたか(注射・投薬は除く)。

1回約 万円 泊

◎全員におうかがいします

12 生殖技術についての意識 (女性用・男性用)

Q102 以下にあげる生殖技術の具体的な方法や、起こるかもしれない医学的な危険(リスク)、議論されてい

る。

法的・社会的・倫理的問題点について、あなたはどのくらいご存じですか。次の1～5の番号の中から一つだけ選んで、数字を直接○で囲んでください。

1：人に説明できるくらい十分に理解している      2：だいたい理解している      3：少しは理解している  
4：言葉を聞いたことがある程度      5：まったく知らない

Q102-1	人工授精 (AIH)	1	2	3	4	5
Q102-2	体外受精	1	2	3	4	5
Q102-3	顕微授精	1	2	3	4	5
Q102-4	提供精子による人工授精 (AID)	1	2	3	4	5
Q102-5	提供卵子による体外受精・顕微授精	1	2	3	4	5
Q102-6	提供精子による体外受精・顕微授精	1	2	3	4	5
Q102-7	提供受精卵による体外受精	1	2	3	4	5
Q102-8	代理母・代理出産	1	2	3	4	5
Q102-9	減胎手術 (減数手術)	1	2	3	4	5
Q102-10	円形精子細胞(または後期精子細胞)を利用した顕微授精					
		1	2	3	4	5
Q102-11	受精卵診断	1	2	3	4	5
Q102-12	クローン	1	2	3	4	5

Q103 それぞれの生殖技術について、あなたはどうしますか。1～5から一つだけ選んで、数字を直接○で囲んでください。

1：受けたことがある      2：それ以外に方法がなければ積極的に受けたい  
3：それ以外に方法がなければ受けるかもしれない      4：受けない      5：わからない

Q103-1	人工授精 (AIH)	1	2	3	4	5
Q103-2	体外受精	1	2	3	4	5
Q103-3	顕微授精	1	2	3	4	5
Q103-4	提供精子による人工授精 (AID)	1	2	3	4	5
Q103-5	提供卵子による体外受精・顕微授精	1	2	3	4	5
Q103-6	提供精子による体外受精・顕微授精	1	2	3	4	5
Q103-7	提供受精卵による体外受精	1	2	3	4	5
Q103-8	代理母・代理出産	1	2	3	4	5
Q103-9	減胎手術 (減数手術)	1	2	3	4	5
Q103-10	円形精子細胞(または後期精子細胞)を利用した顕微授精					
		1	2	3	4	5
Q103-11	受精卵診断	1	2	3	4	5
Q103-12	クローン	1	2	3	4	5

Q104 これらの生殖技術が用いられることについて、どう考えますか。1～5から一番近い気持ちを一つだけ選んで、数字を直接○で囲んでください。

1：賛成 2：どちらかと言えば賛成 3：どちらかと言えば反対 4：反対 5：わからない

Q104-1	人工授精 (AIH)	1	2	3	4	5
Q104-2	体外受精	1	2	3	4	5
Q104-3	顕微授精	1	2	3	4	5
Q104-4	提供精子による人工授精 (AID)	1	2	3	4	5
Q104-5	提供卵子による体外受精・顕微授精	1	2	3	4	5
Q104-6	提供精子による体外受精・顕微授精	1	2	3	4	5
Q104-7	提供受精卵による体外受精	1	2	3	4	5
Q104-8	代理母・代理出産	1	2	3	4	5
Q104-9	減胎手術 (減数手術)	1	2	3	4	5
Q104-10	円形精子細胞(または後期精子細胞)を利用した顕微授精	1	2	3	4	5
Q104-11	受精卵診断	1	2	3	4	5
Q104-12	クローン	1	2	3	4	5

Q105 これらの生殖技術について、一定の規則や制限を設けたほうが良いという意見があります。あなたはどうか考えますか。次のうちから一つだけ選んでください。

01 規則や制限はあったほうがよい 02 規則や制限はなくてよい 03 わからない

【参考】体外受精や人工授精などの生殖補助技術については、日本では法的な規制はありません。日本産科婦人科学会が会員である産婦人科医に対して会告を出し、自主的に規制しています(罰則および法的な拘束力はありません)。イギリス、フランス、オーストラリア、ドイツなどでは法律をつくり、治療の対象者や精子提供、卵子提供の可否、胚の扱いなどについて規制を設けています。アメリカは州によって違い、ほとんど規制がない州が存在する一方、代理母を禁じている州もあります。

Q106 【規則や制限はあったほうがよい】と答えた方にうかがいます。では規制や制限はどのように設ければよいと思いますか。次のうちから一つ選んでください。なおここで言う「法律」とは、何からの罰則規定があるものを指します。

01 学会等が自主的に規制する

02 国が指針(ガイドライン)を示し、規制する

03 国が指針(ガイドライン)を示し、必要なところは法律で規制する

04 専門家とさまざまな立場の市民による第三者機関が指針(ガイドライン)を示し、規制する

05 専門家とさまざまな立場の市民と国による第三者機関が指針(ガイドライン)を示し、必要なところは法律で規制する

06 法律ですべて規制する

07 わからない

08 その他[具体的に:]

平成10年度 厚生科学研究「子ども家庭総合研究事業」

## わが国における生殖補助医療の実態とその在り方に関する研究

分担研究課題：生殖補助医療の安全性に関する研究

### 分担研究報告書

分担研究者：寺尾 俊彦<sup>1)</sup>

研究協力者：今泉 洋子<sup>2)</sup>

青野 敏博<sup>3)</sup>

伊吹 令人<sup>4)</sup>

寺川 直樹<sup>5)</sup>

- 
- 1) 浜松医科大学産婦人科
  - 2) 国立社会保障・人口問題研究所
  - 3) 徳島大学医学部産婦人科
  - 4) 群馬大学医学部産婦人科
  - 5) 鳥取大学医学部産婦人科